

# ほし 彩星だより

彩星の会・若年認知症家族会 会報 第32号  
平成20年7月発行



## ほしまつり 100名を超える大盛況 吹っ飛ぶストレス

5月25日正午から、東京・新宿のクラブ・ツーリズムで彩星の会初めてのイベント ほしまつり が開かれた。強い雨脚が懸念されたが、会場はビックリするほどの100名を超える人で大盛況だった。

今回は、いつものような講演や本人と家族に分かれた交流会ではなく、一つの大きな会場で、女性役員らが家で作ってくれた手作りのおむすびやサンドイッチ、デザートを食べながら本人と家族、サポーター、医師、看護介護関係者らがおもしろいおもしろいテーブルを囲み、あちこちで挨拶や、本人や家族の近況報告が交わされた。

会場の一角では恒例の宮永和夫顧問（新潟県・ゆきぐに大和病院院長）による個別医療相談も行われ、5組が先生のアドバイスを受けていた。なかには脳の画像を持ち込み先生の説明に食い入るように聞き入っている人もいて、皆が散会した後も明かりの消えた会場で相談が続いた。

参加者の中には介護者をサポートしているアラジンや若年認知症の人達の就労など社会参加に取り組んでいるジョイントも参加し大いに盛り上がった。

宮永顧問あいさつ  
欠かせない介護者のケア



冒頭開会挨拶に立った宮永和夫顧問は次のように述べた。

「認知症への理解は広がりつつあるが、まだまだで、中でも難しさを内包している若年認知症への理解は緒につき始めたといったところです。国も腰を入れ始めつつあり、彩星の会の役割は一段と高まっている。若年認知症は本人だけでなく、特に介護者のケアも欠かせない。

今回のほしまつりは、本人と家族、看護介護関係者らが一緒になり大いに話し合い、うたいあい、楽しもうというものです。彩星の会にとってエポックメイキングといえましょうこれほどの大勢の方がお集まりになるなんて思いもありませんでした。これを企画し開催実行された役員はじめ関係者の労を多とします。ありがとうございます。

## デパチカも仰天 盛り沢山 おにぎり サンドイッチ

宮永顧問の挨拶が終わると、テーブルを囲み話し込む人、笑顔で挨拶を交わす人、真剣まなざしで話し合う人、話が弾む。

ひととき目立ったのが長いテーブルにズラート並べられたおにぎりやサンドイッチやカナッペ。

おにぎりは女性役員らが当日朝早く起き自宅で作ってきたもの。新鮮そのもの。種類とくれば18穀米、16穀米、梅じそ、おかか、紅しょうが、小梅、さけ、昆布、明太子、いなりずしなど総個数182個。デパ地下なんか敵じゃない。

ハム、チーズを挟んだサンドイッチには25斤ものパンが使われ、デザートにフルーツポンチも用意された。これら生ものは当日会場で作ったもの。

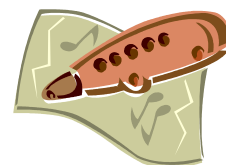
テーブルの前は早速人垣が。“ワーッ こんなにたくさん。ありがとうございます。何からいたでいいのか迷うわ”といいながらお皿に好きなものを盛り、テーブルに戻る人、お皿を手に立ち話をする人、、、人、、、。



## ♪♪ミュージック・ステーション やさしく響くオカリナとハーモニカ

オカリナが始まった。Mさんだ。先ごろまで夫と

もに熱心に毎回のよう定例会に参加してきた。今日、夫はいない。やむを得ず入院したのだ。それでも皆んなに会いたいと奥さんが参加した。特養、老健など施設を仲間とともに演奏しまわっているという。エーデルワイス、夏の思い出、浜辺の歌など7曲を披露。会場からは懐かしい曲に合わせて小声で歌う人、口ずさむ人。楽しさが広がった。



次に登場したのも頭文字Mさん。大好きなハーモニカで故郷と春の小川を披露。会場から惜しめない拍手が送られた。ジョイントでは時々吹き、仲間を楽しませているという。



## スポーツコーナーはガッツポーズ ヤッター ヤッター 満面笑み

Oさんは入院中。外出許可をとって奥さんとまつりに参加した。久しぶりのゲームチックな輪投げ、吹き矢に夢中。輪が入ったり、矢弾が的を射るたび、大柄な身体をさらに大きくし、大きく声を張り上げて“ヤッター ヤッター”と飛び上がりながら満面笑み。奥さんは向こうのテーブルで談話中。輪や矢弾を渡したり拾っているのはサポーターさん。

その隣では、紺のジャケットをバリッと着た紳士風Fさんと薄い色眼鏡にロマンスグレーがかかったダンディー風のOさん。黙々と輪投げを続け、輪が入ると互いになごみの視線を送り、周りから拍手をもらおうと、ニッコリ笑顔を投げ返していた。



### ジョイント オークション 自作絵葉書 写真販売

認知症の方の社会参加を支援しているジョイントもほしまつりに賛同し、メンバーが作った絵葉書や写真などを展示即売したりオークションをかけ、収益金の全額を直ちに自らの福祉事業活動ジョイントに寄付。

### 歌って踊ってフィナーレ うさぎ追いし かの山 に全員大合唱

ミュージック・ステーションから突如歌声が響き始めた。

ステーションには認知症本人、家族、サポーター、実行役員ら大勢が揃い、ギター伴奏にアラジンのMさん、家族会のHさんがいた。上を向いて歩こうを歌い始めると、会場 100 名の大合唱となり、三百六十五歩のマーチ、星影のワルツ、チャンチキおけさと続き、東京音頭では踊りの輪も広がった。

フィナーレ、うさぎ追いし かの山 …… と叙情歌 ふるさと・故郷 の全員合唱で楽しかった一日を過ごした。

一人で参加したNさん“雨模様だったので本人は家で留守番してもらっているんですが、こんなに楽しいなら一緒に来ればよかった。今度は来ますよ”と一緒に来そこなった事を残念がっていた。



### 干場代表挨拶 『若年認知症調査』をお願い

最後に干場代表が挨拶に立ち次のように述べた。

「平成 13 年に立ち上がった若年認知症家族会・彩星の会は、今年新たなステージに立とうとしている。独立行政法人福祉医療機構から助成金を得て『若年認知症本人と家族への支援と啓発』と題する事業に取り組むことになった。この事業に彩星の会挙げて



取り組むことが若年認知症問題に展望を拓くことになりましょう。このため、近く若年認知症に関する総合的なアンケート調査を実施いたします。さらに 30 名ぐらいの方にインタビューをし、アンケート調査を掘り下げて介護や悩み、生活上の問題や期待などを集約したいと思います。

皆様方の全面的なご協力を切にお願いいたします。

(まとめ：いいづかよしかつ)

# 人今人

## 事例報告① 中野区在住 C. K

本人：夫 64 歳

発症：2005 年 5 月ごろ

2005 年 11 月下旬から 12 月上旬にかけて大学  
病院に検査入院

診断：アルツハイマー病と告げられ、アリセプトを  
飲み始める

2006 年 1 月、要介護 1。デイサービスに週 2 日通  
所

2006 年 5 月から“ゆうゆうスタークラブ”(高円寺)  
に月 1 回(日曜日)お世話になる。

2007 年 6 月、要介護 2。デイサービスに週 4 日。  
ただし、夫の母の病氣逝去などのため、精神的ダメ  
ージが大きく、デイサービスにも通所ままならず、  
夫の病気の進行が早く、いろいろな症状が出て落ち  
着かなく、顔色がすぐ変わって夜は寝なくて大変で  
した。

ちょうど、2007 年 10 月に、若年認知症社会参加支  
援センター“ジョイント”(新宿区新宿御苑)に声を  
かけていただき、おかげ様で夫のがんばった顔から  
笑いの出る顔になり、口ごもって聞こえなかった話  
し声も、ジョイントではハッキリと話ができ冗談も  
話すようになり大変感謝しています。

2008 年 4 月、治験に参加のためアリセプトを 1 か  
月止める。検査の結果あまりに数値が低く参加でき  
ず(夫の場合、アリセプトが非常に効いていた)、す  
ぐアリセプトを飲み始める。

2008 年 5 月中旬、アリセプトの量を増すも夫の状  
態はあまりよくない。テレビの中に入り込んで話し、  
布団に寝ても独り言のようにおしゃべりをするが聞  
き取れないときのほうが多い。なかなか寝ない。ト  
イレに何度も行く。パジャマの上から服を着て、バ  
ッグを持って「家に帰る」と、夜の 10 時ぐらいでも  
一度外に出ないと気がすまない日がある。

2008 年 6 月初旬に薬の量を減らし、今は夫の状態  
を見守っています。デイサービスは週 3 日ですが、

休んだり半日で帰ったりする日が多い。ジョイント  
には週 2 日通っています。



## 事例報告② 三鷹市在住 K. T

本人：夫 54 歳

診断：2003 年 6 月 前頭側型認知症

(2000 年よりうつ病で他の病院に通院してい  
たが病状が酷くなり、入院した先の大学病院  
で診断される)

現在：デイサービス利用 4～5 回/週

若年認知症社会参加支援センター“ジョイン  
ト”への参加 1 回/週

状態：歩行は多少困難である(薬の副作用か?) 記  
憶障害はかなり進行しており、たった今何を  
しようとしていたのか忘れてしまうことが多  
くなってきた。

食事・入浴・着替えは自力で行っている。2003  
年に認知症との診断を受けてから、暴力行為が原因  
の緊急入院(2005 年 7 月)など大変なこともたくさ  
んありましたが、現在は自宅介護でおだやかな日々  
を過ごしています。自分のお気に入りの曲を入れた  
MDを聴きながら歌を口ずさんだり、病気になる前  
はあまり関心がなかったような道端の花を「きれい  
だね、何の花?」と興味を持ったり、デイサービス  
での出来事を楽しそうに話してくれたり、以前のよ  
うに陰しい表情を見せることが少なくなりました。

デイサービスではカラオケを楽しんだり皮細工に  
打ち込んだり、コツコツと丁寧な作業ができてい  
るようです。最近職員のかたたちから「ゲームをする  
ときに他の利用者の方々を一生懸命応援して『惜し  
かったですね』などと積極的に声をかけてくれるの  
でとても助かります」とおっしゃっていただきました。

今の落ち着いた状態を保てているのは“ジョイン  
ト”の存在が大きいと感じています。

スタッフやサポーターの皆様に助けられながら、同世代の同じ病気の方たちと仲間意識をもって社会参加することに充実感を感じ、自分の居場所を得た安心感もあるようです。活動の中では特に“道のサポーター”としてボランティアで公園や道路の掃除をするのが、もともと人のために何かをするのが好きだった主人は気に入っています。

先日主人を連れて息子、娘、娘婿と堂ヶ島へ旅行をしてきました。落ち着いた状態が長く続くことがなかったので本当に久しぶりの旅行だったのですが、

家族に囲まれておいしい料理に舌鼓を打ち、はじめての“おかまショー”に大はしゃぎし、とてもリフレッシュしたようです。

この穏やかな日々がいつまで続くかはわかりませんが、彩星の会をはじめ“ジョイント”やデイケア施設等のみなさまに支えていただきつつ、家族で力を合わせてがんばっていきたいと思います。

### \* 訂正とお詫び

本誌第31号 江東区在住 一粒の種になりたい人 からの寄稿文中誤りがありましたので、お詫びし下記のごとく訂正します。

(新) 楽々の身に触るるのも遠くなり 終の思いの浮かぶが侘びし  
(31号) 楽々の身は触るるのも遠くなり 終の思いの浮かぶが侘びし

### 若年認知症に関する調査のお願い

若年認知症家族会各位

代表 干場 功

6月18日付けにてお願いしました標記調査につきましては、提出期日の7月22日が間近になりました。

本調査は、独立行政法人福祉医療機構殿より平成20年度の助成金を得て行う「若年認知症本人と家族への支援と啓発」に関する調査研究の一環です。若年認知症問題へのさらなる理解を得るとともに国の施策支援を期待するものです。

ぜひご協力くださるようお願いいたします。



## 認知症の「心神喪失」認定し無罪確定

熊本市のショッピングセンターで万引きしたとして、窃盗の罪に問われた女性（69歳）の判決公

判が5月12日、熊本簡裁であり、裁判官は「犯行当時、認知症のため心神喪失の状態だった」と認定し、無罪（求刑懲役1年）を言い渡した。

女性は昨年8月17日ショッピングセンターで、弁当など9点（2,800円相当）を盗んだ、として起訴された。

公判で弁護側は女性の精神鑑定を請求。MRI検査で脳の前頭葉から側頭葉にかけ著しい萎縮が確認され、認知症の一種であるピック病による心神喪失とする鑑定結果が出た。

判決理由で裁判官は、鑑定結果を全面的に採用し、「適切な判断や思考、行動を選択する前頭葉は犯行当時、まったく機能しないに等しい状態だったと判断。万引き行為は認めた上で「規範意識もなく欲望に基づいた反射的な行動で、心神喪失者の行為として罪にならない」と述べた。

検察側は「周囲を警戒し、用意した袋に素早く商品を隠すなど、被告の行動は万引犯として合理的で自然。脳の画像診断以外に特段の根拠がない鑑定結果は信用しがたい」と主張していた。

弁護人は「判決を評価する。慎重に捜査していれば、もっと早く治療に専念できたはずだ」と指摘した。

熊本地検は「判決内容を精査し、上級庁と協議の上、適切に対処したい」とコメントした（熊本日日新聞2008年5月13日）

\*本件検察側が控訴せず5月27日無罪が確定した

## 宮永和夫医師の「ピック病の自己チェックリスト」

### ①状況に合わない行動

不適切な悪ふざけや配慮を欠いた行動。周囲に無遠慮、身勝手な行為をする。

### ②意欲減退

引きこもりや、何もしない状況が続くが、思い当たる原因はなく、本人に葛藤は見られない。

### ③無関心

衛生、容姿に無関心で不潔になる。周囲の出来事にも関心を示さない。

### ④逸脱行為

万引きなど軽犯罪を犯すが違法行為の意味が理解できない。同じ行為を繰り返す場合が多い。

### ⑤時刻表的行動

散歩や食事、入浴などの日常行為を毎日決まった時間に行い、止めると怒る。

### ⑥食べ物へのこだわり

毎日同じもの、特に甘いものしか食べない。際限なく食べる場合も。

### ⑦同じ言語

同じ言葉を際限なく繰り返す。他人の言葉をオウム返しする。

### ⑧嗜好の変化

食べ物、味付けの好みが大きく変わる。酒やタバコを以前の量を超えて大量摂取する。

### ⑨発語障害

無口になったり、語彙が少なくなる。物を見せても使い方がわからない。

### ⑩初めは記憶がある

初期は最近の出来事などの記憶があり、道に迷ったり日付を間違えたりしない

◆◆40台以降に初めて気付いた症状として、10項目のうち3項目以上に該当するとピック病が疑われるとして、専門医の受診を進めている。

◆◆④⑤⑦⑨は一つでも該当するとピック病の疑いあり。

# ほし 歌壇・俳壇



## ☆介護者の歌☆

「房江ちゃん これでラクになるよ」と 夢の札束  
(皆さんの代弁者?のつもり)

まだ私が働いて主人を介護できていたころ、私のボーナスをもって  
新橋までひとりで行って、宝くじをどっさり買われてしまったときのセリフです。  
もちろん、全部ハズレでした

寝たきりの あなたに未だ支えられ 心配させる妻でごめんネ

約7年ぶりにフルタイムで働きだし、日々の面会がきつくなるかと思っていたら  
逆に主人にいやされて私が安心して過ごすことができ、主人に感謝しています。

紫陽花は 青から赤に変わるけど 心変わりは今更できない

(えみこ)

## 秋のバス旅行

### ～伊豆の旅～

#### ■日程：9月6日（土）

9：45 新宿駅西口集合・出発 → 東名高速 → 芦ノ湖遊覧船 → 十国峠（昼食）  
→ 伊豆スカイライン → 15：30 伊東温泉ホテル暖香園（泊）

\*温泉に入るときは、現地のサポーターさんが付きます

#### 9月7日（日）

9：00 ホテル発 → 伊東マリンタウン（ショッピング） → 伊豆中央道・東名道・  
東富士五湖道 → 西湖いやしの里根場（見学・散策） → 河口湖（昼食）  
→ 中央道・首都高 → 15：30 新宿着

■参加費：2名1室 24,000円／人

4名1室 23,000円／人

\*交通費・食事代金・入場料等含む

■申込：7月27日までに事務所へお申込み下さい

☆ 7月定例会☆

日時：平成20年7月29日（日）13:00～

講演：『認知症介護家族と支援者の心のケア』

講師：松本一生（松本診療所院長、大阪人間科学大学教授）

場所：上智大学四谷キャンパス 図書館8F \*別添地図参照

『満月の夜、母を施設において』

アルツハイマー病になった母に注がれる切なくて哀しくて優しい詩たち

詩◆藤川幸之助 絵◆松尾たいこ 対談◆谷川俊太郎

発行所◆中央法規 TEL: 03-3379-3784 定価◆1500円

相談は…

彩星の会 東京事務局

住所：〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-5  
グランドメゾン新宿東801

電話：03-5919-4185 携帯：080-5445-5298（干場）

FAX：03-5368-1956

eメール：hoshinokai@star2003.jp



編集後記



定例会のほしまつりのにぎやかさが今も響いてきます。  
本号は3頁にわたってほしまつりをカラー写真を使って  
まとめました。

次回ほしまつりを一層楽しいものにしたいと思います  
ので、ご意見をお寄せ下さい。

発行：彩星の会・若年認知症家族会

平成20年 7月9日

編集担当：宮永和夫、高橋恵美子

飯塚義勝